

研修報告書 No.12

所 属： 昭和大学病院

研修先： 特定医療法人長生会 大井田病院

大井田病院にて11月の1ヶ月間、地域医療研修をさせていただきました。高知県を訪れるのは今回が初めてのことでしたが、両親の実家が四国にあったため親近感を感じており、以前よりいつか足を踏み入れたいと思っておりました。期待と不安が混在する中、地元を離れ、昼ごろに高知龍馬空港に到着。そこからさらに電車を乗り継いで4時間余りかけて宿毛駅に着いた頃には、あたりは真っ暗で、正直なところ想像以上に田舎に来てしまったという感じがしました。しかしその後お出迎えしてくださった病院の方々が非常に温かく、不安は一気に取り払われました。そして翌朝改めて眺めた周囲の山々や河川、空が広大で本当に美しく心を打たれました。以降大自然に癒されながら毎朝出勤という夢のような地域医療研修生活がスタートしました。

研修内容は、大井田病院での外来や救急対応、訪問診療・訪問看護、乳幼児健診、予防接種、幡多福祉保健所での研修などでした。いずれも普段大学病院で勤務している私にとっては新鮮なものでしたが、特に印象に残ったことについて、できる限りご報告させていただきます。

地域においてマンパワーが不足しているという問題はよく耳にする話であり、実際ここ宿毛においてもそうでした。しかしそれ以上に専門分野の垣根なく診療にあたっている医師をはじめ医療スタッフの力量が勝っており、またカルテのデータベースを病院間で共有するなど医療連携が綿密で、限られた医療資源の中で工夫をしながら医療体制を支えています。大学病院では自分の専門外は専門のところに任せるといったスタイルが定着していますが、一方で専門外の知識や経験は浅くなってしまいます。しかし、こちらでは「専門外なので診察はできません」が原則許されない印象を受けました。専門でないのなら自らガイドラインや医学書から学ぶしかないとお話される医師もいらっしや、地域の住民の健康を守ることへの使命感の強さにも圧倒されました。こちらに来て初めてプライマリ・ケアというものを実感し、専門性が高いことも重要ですが、幅広く診療にあたる医師の方が地域においては需要が高いのだと感じ、都心と地域での医療の提供方法の違いを目の当たりにしました。

次に訪問診療や訪問看護といった在宅医療が地域では進んでいるという印象を受けました。普段の研修病院では、研修医の身としては主に病棟業務がメインで、外来を担当する機会はほとんどありませんでした。こちらでは外来や訪問診療を通じて、自宅や施設での生活に沿いながら提供する医療の形を経験することができ、退院後の経過を辿ることができたのは私にとってはとても新鮮でした。特に印象に残った症例があります。がんの終末期で余

命数週間と言われていた入院患者さんがいらっしゃいました。在宅医療の希望があり自宅退院することになりました。訪問診療で訪ねてみると入院していた時とは打って変わって、自宅にいる安心感からか表情も穏やかで活気が出ており、ご家族によると家で多少活動力がアップしたとのことでした。在宅医療の長所がここまで顕著に出るとは思っていなかったため特に印象に残りました。また患者さんや家族のニーズにできるだけ寄り添おうとする高知の医療スタッフのフットワークの軽さには圧倒されました。

診療に従事していても高知観光していても感じたことは、何ととっても高知の方々の人間性の高さと温かい人柄です。フレンドリーな高知の方々のお陰で楽しい地域研修を送ることができ、1か月はあっという間に過ぎてしまいました。特に宿毛市とは今回の機会がなければご縁なく一生を終えていたかもしれないと思うと、とても貴重で幸せな機会をいただいた気が致します。どのような形であれ、必ずまた訪れたいと思います。今回の研修で出会った先生方、医療スタッフの方々、地域の方々、高知医療再生機構の方々、1ヶ月間大変お世話になりました。